

令和6年度 日野市立大坂上中学校経営重点計画				自己評価シート				令和7年3月公表			
★学校教育目標		○よく考え進んで学ぼう		○思いやりの心を持ち他につくそう		○心身を鍛え全力でやり抜こう		★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）		【目指す児童・生徒像】		【目指す学校像】		【目指す教師像】		令和6年度は【明日という小さな未来に思いを馳せることができる学校】を目指し、次の点を特色とした教育活動を行う。			
		①自ら学び、考え、何事に対しても主体的に取り組む生徒 ②豊かな心を持ち、決まりやマナーを守り社会のために役立とうとする生徒 ③学校行事、生徒会活動、部活動などを通して心身を鍛え、最後までやりぬく生徒 ④異校種の学校及び地域の活動に協力ができる生徒		①一人一人の生徒を大切にし、鍛え、可能性を伸ばす学校 ②心を豊かに育み、規範意識を持って社会に貢献できる生徒を育てる学校 ③生徒同士、生徒と教員が相互に信頼する温かい学校 ④異校種及び地域との連携を大事にする学校		①生徒とのコミュニケーションをしっかりと取り、信頼関係を構築できる教師 ②生徒の良さや能力を引き出し、学力を高める指導をする教師（授業力の向上） ③生徒の心の豊さを育み、規範意識・人や社会への貢献の大切さを教え、実行させる教師 ④生徒の心身を鍛えるための指導法の工夫や努力を惜しまない教師（校内OJTの活用） ⑤生徒のために、学校内外で連携・協力をして教育活動を行う教師		●「明日も楽しみ」と思える授業 ●「明日も会いたい」と思える教師・友達 ●「明日はもっと」と思える取組 ○生徒が安心して生活できる学校 ・あいさつが聞こえる学校 ・環境が美しい学校 ○生徒の自主性・主体性を育む学校 ・自ら学ぶ力の育成 ・学校図書館を活用した探求学習の充実 ○生徒が生き生きと学び、活動する学校 ・生徒が主体的に学ぶ学校 ・地域・保護者とともに歩む学校 ○教職員が明るく生き生きとして、お互いに切磋琢磨しながら教育活動に取り組める学校 ○業務の効率化、外部人材の活用等により働き方改革を推進する学校			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標		評価点			成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	自分に合った学びと学び方を通じて、学力の定着を図る	学指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する。	生徒自らが設定した課題に取り組ませるとともに、ICT、学習者用端末を活用した言語活動・話し合い活動を充実させることで、生徒による自主的な活動を展開する。授業の終末では振り返りを行わせ、自らの変容を確認させるとともに次に授業への見通しをもたせる。授業アンケートを学期ごとに行い、授業改善を行っていく。	4	4	90%以上の教員が生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答	4	4	90%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	引き続き授業改善を行うとともに、協働学習や探究学習の充実を図りながら、生徒に学習の見通しを持たせ、根気強く学習に向き合う生徒の育成や、学習への主体性を伸長。生徒自身が学力の変容を実感できる工夫が大切だと考える。
	社会の一員としての自覚を持ち行動する姿勢を育成する	身近にある様々な課題を、自分事としてとらえ、変化を起こすために必要なことを考えさせることで、責任をもって行動し最後までやり抜くことができる生徒を育てる。	生徒会を中心に、坂中生のありたい姿、「尊重・伝統・進化・自律」に基づく、委員会を中心とした「子供たちがつくる学校プロジェクト」を推進する。生徒会と日野台高校が連携したSDGsに関する取組等を通して、地域や社会をよりよくすることの大切さをとらえさせる。		3	80%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答		3	80%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	
2					60%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答	2		60%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答		
1					生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答した教員が60%未満	1		「授業が分かりやすくなった」と回答した生徒は60%未満		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	多様な個性を認め合える安心・安全で何事にも挑戦できる環境をつくる	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、一人一人に対して丁寧な指導・対応を通して、すべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める。登校がかなわない生徒にも、個別相談や校内登校支援教室等を通して教室復帰の道筋を作る。	3	4	95%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	4	4	95%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	得意・不得意や長所を認め合い、他者との違いや個性を受け入れられる雰囲気づくりを切に望みます。いじめ等の対応は、担任が抱え込むことが無いよう、学年での対応をこれからお願いします。
	特別支援教育の充実を図る	特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める。	校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職・各学年に配置した特別支援コーディネーター・SC・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える。		3	90%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答		3	90%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	
2					80%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	2		80%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない		
1					いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答した教員は80%未満	1		生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない80%未満		
社会と未来に関き、みんなでつくる	小中高の連携を深め、協力体制の推進を図る	小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する。日野台高校との連携を深める。	小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する。校区の小学校や日野台高校等、地域の他校種の学校と交流することで、本校への理解を深めてもらうとともに、協力が得られるような体制づくりをする。	4	4	90%以上の教員が校内委員会にであった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答	3	4	90%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答	生徒の特性に合わせ、個々の状況に合わせた授業を行っていくことは、課題も多くあると思います。教職員だけに任せるのではなく、総合的な支援で先を見定めた教育を期待しています。
	地域・社会との連携を深める	学校と地域・社会との相互の交流を活性化する	教育計画（SDGsカレンダー等）の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。また、学校Webサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する		3	80%以上の教員が校内委員会にであった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答		3	80%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答	
2					70%以上の教員が校内委員会にであった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答	2		70%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答		
1					校内委員会にであった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答した教員は70%未満	1		学校の子供への支援が合理的で適切であると回答した保護者は70%未満		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	自分に合った学びと学び方を通じて、学力の定着を図る	学指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する。	生徒自らが設定した課題に取り組ませるとともに、ICT、学習者用端末を活用した言語活動・話し合い活動を充実させることで、生徒による自主的な活動を展開する。授業の終末では振り返りを行わせ、自らの変容を確認させるとともに次に授業への見通しをもたせる。授業アンケートを学期ごとに行い、授業改善を行っていく。	3	4	90%以上の教員が生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答	3	4	90%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	引き続き授業改善を行うとともに、協働学習や探究学習の充実を図りながら、生徒に学習の見通しを持たせ、根気強く学習に向き合う生徒の育成や、学習への主体性を伸長。生徒自身が学力の変容を実感できる工夫が大切だと考える。
	社会の一員としての自覚を持ち行動する姿勢を育成する	身近にある様々な課題を、自分事としてとらえ、変化を起こすために必要なことを考えさせることで、責任をもって行動し最後までやり抜くことができる生徒を育てる。	生徒会を中心に、坂中生のありたい姿、「尊重・伝統・進化・自律」に基づく、委員会を中心とした「子供たちがつくる学校プロジェクト」を推進する。生徒会と日野台高校が連携したSDGsに関する取組等を通して、地域や社会をよりよくすることの大切さをとらえさせる。		3	80%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答		3	80%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	
2					60%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答	2		60%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答		
1					生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答した教員が60%未満	1		「授業が分かりやすくなった」と回答した生徒は60%未満		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	多様な個性を認め合える安心・安全で何事にも挑戦できる環境をつくる	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、一人一人に対して丁寧な指導・対応を通して、すべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める。登校がかなわない生徒にも、個別相談や校内登校支援教室等を通して教室復帰の道筋を作る。	3	4	95%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	4	4	95%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	得意・不得意や長所を認め合い、他者との違いや個性を受け入れられる雰囲気づくりを切に望みます。いじめ等の対応は、担任が抱え込むことが無いよう、学年での対応をこれからお願いします。
	特別支援教育の充実を図る	特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める。	校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職・各学年に配置した特別支援コーディネーター・SC・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える。		3	90%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答		3	90%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	
2					80%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	2		80%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない		
1					いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答した教員は80%未満	1		生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない80%未満		
社会と未来に関き、みんなでつくる	小中高の連携を深め、協力体制の推進を図る	小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する。日野台高校との連携を深める。	小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する。校区の小学校や日野台高校等、地域の他校種の学校と交流することで、本校への理解を深めてもらうとともに、協力が得られるような体制づくりをする。	3	4	90%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答	3	4	90%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答	小学校等の連携は、とても良い取り組みだと思います。進学時のギャップを減らせるよう学習や生活スタイルなど学校間の情報共有をお願いします。中学校同士の交流もあると、同年代からの刺激があり、学校が活性化すると思います。
	地域・社会との連携を深める	学校と地域・社会との相互の交流を活性化する	教育計画（SDGsカレンダー等）の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。また、学校Webサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する		3	80%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答		3	80%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答	
2					70%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答	2		70%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答		
1					他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答した教員が70%未満	1		小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答した教員は70%未満		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	自分に合った学びと学び方を通じて、学力の定着を図る	学指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する。	生徒自らが設定した課題に取り組ませるとともに、ICT、学習者用端末を活用した言語活動・話し合い活動を充実させることで、生徒による自主的な活動を展開する。授業の終末では振り返りを行わせ、自らの変容を確認させるとともに次に授業への見通しをもたせる。授業アンケートを学期ごとに行い、授業改善を行っていく。	3	4	90%以上の教員が生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答	3	4	90%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	引き続き授業改善を行うとともに、協働学習や探究学習の充実を図りながら、生徒に学習の見通しを持たせ、根気強く学習に向き合う生徒の育成や、学習への主体性を伸長。生徒自身が学力の変容を実感できる工夫が大切だと考える。
	社会の一員としての自覚を持ち行動する姿勢を育成する	身近にある様々な課題を、自分事としてとらえ、変化を起こすために必要なことを考えさせることで、責任をもって行動し最後までやり抜くことができる生徒を育てる。	生徒会を中心に、坂中生のありたい姿、「尊重・伝統・進化・自律」に基づく、委員会を中心とした「子供たちがつくる学校プロジェクト」を推進する。生徒会と日野台高校が連携したSDGsに関する取組等を通して、地域や社会をよりよくすることの大切さをとらえさせる。		3	80%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答		3	80%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	
2					60%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答	2		60%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答		
1					生徒の自主性を引き出す授業を実施し、授業改善に努めたと回答した教員が60%未満	1		「授業が分かりやすくなった」と回答した生徒は60%未満		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	多様な個性を認め合える安心・安全で何事にも挑戦できる環境をつくる	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、一人一人に対して丁寧な指導・対応を通して、すべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める。登校がかなわない生徒にも、個別相談や校内登校支援教室等を通して教室復帰の道筋を作る。	3	4	95%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	3	4	95%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	得意・不得意や長所を認め合い、他者との違いや個性を受け入れられる雰囲気づくりを切に望みます。いじめ等の対応は、担任が抱え込むことが無いよう、学年での対応をこれからお願いします。
	特別支援教育の充実を図る	特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める。	校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職・各学年に配置した特別支援コーディネーター・SC・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える。		3	90%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答		3	90%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	
2					80%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	2		80%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない		
1					いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答した教員は80%未満	1		生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない80%未満		
社会と未来に関き、みんなでつくる	小中高の連携を深め、協力体制の推進を図る	小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する。日野台高校との連携を深める。	小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する。校区の小学校や日野台高校等、地域の他校種の学校と交流することで、本校への理解を深めてもらうとともに、協力が得られるような体制づくりをする。	3	4	90%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答	3	4	90%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答	小学校等の連携は、とても良い取り組みだと思います。進学時のギャップを減らせるよう学習や生活スタイルなど学校間の情報共有をお願いします。中学校同士の交流もあると、同年代からの刺激があり、学校が活性化すると思います。
	地域・社会との連携を深める	学校と地域・社会との相互の交流を活性化する	教育計画（SDGsカレンダー等）の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。また、学校Webサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する		3	80%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答		3	80%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答	
2					70%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答	2		70%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答		
1					他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答した教員が70%未満	1		小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答した教員は70%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。